

第9回

1. 日 時 平成17年2月1日(火) 13:30~15:20

2. 場 所 東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル 本館8階 けやきの間

3. 委員の現在数 4名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 若杉 敬明

委 員 神谷 高保

委 員 中村 実

以上 3名 出席

5. 議 題

・ 平成16年度積立金運用実績(1月末現在) (報告)

・ 平成17年度運用方針及び計画 (審議)

6. 開 会

事務局から、本日の積立金運用委員会は同規則第4条の規定による定足数を満たしているため、有効に成立している旨の報告があった。

続いて、板倉治成理事長から挨拶を述べた後、委員長の選出について諮ったところ、委員の互選により、若杉敬明委員が委員長に再選され、委員長再任の挨拶を述べた後、議事に入った。

7. 議事の概要

井上毅専務理事から、上記5.の議題について下記の説明を行った。

・ 平成16年度積立金運用実績(1月末現在)

平成16年度運用額は、平成15年度積立分受入分から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた567億円を見込む。

運用内訳は、国債、政府保証債、地方債、事業債とも、ほぼ計画通りの運用を達成できる見通し。

購入債券の平均利回りは、成果に対する基準としての「運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り」を上回っている。

* 平成 16 年度運用対象期間は平成 16 年 3 月から平成 17 年 2 月まで。

上記 . の報告について了承した。

. 平成 17 年度運用方針及び計画

運用の基本方針である(1)長期的に安全確実性を重視した運用(2)割引率を目標とした運用収益の確保(3)市場への影響に配慮、に基づき、平成 16 年度運用方針及び計画を踏襲し、平成 17 年度運用方針及び計画を取り纏めた。

上記 . の議題について審議した結果、了承した。

8 . 次回スケジュール

平成 17 年 6 月下旬もしくは 7 月上旬を目途に開催したい。

9 . 閉 会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

委員会で寄せられた意見

. 平成 17 年度運用方針及び計画

計画案は資金受入直後の 3 月及び 4 月に傾斜した運用を行い、キャリングロスを最小にするよう努めている。従前から資金の性格を考慮すると、この方式をある期間継続すべきであるというのが委員会の考えである。経済状況が予想外に急変する可能性がある時、例えば急激な円高の進行時には、当初の計画に拘らず臨時の積立金運用委員会を開催し、柔軟な運用に努めることとしてはどうか。

電力債での運用についての委員会の意見を、その理由とともに、ホームページの上で明示した方がよいのではないか。

(参考)

資金管理業務運用実績

積立金資産構成

(平成17年1月31日現在)

		簿価金額	構成比(簿価)	額面金額	平均クーポン	利回り
		百万円	%	百万円	%	%
債 券	国債	143,031	49.5%	142,800	1.28%	1.25%
	政府保証債	33,873	11.7%	34,041	1.26%	1.33%
	地方債	54,251	18.8%	54,533	1.33%	1.41%
	事業債	57,630	20.0%	57,700	1.40%	1.42%
	債券合計	288,785	100.0%	289,074	1.31%	1.32%
預金	3,069	-	-	-	0.01%	
運用残高合計	291,854					

百万円未満は切り捨て

利回りは1月31日時点の最終利回り(単利)、平均残存年数は7.60年

地方債・事業債の平均格付け

(平成17年1月31日現在)

地方債 AA+

事業債 AA+

・保有債券の格付けを数値化(注)し、額面金額の加重平均により算出(小数1位四捨五入)

(注) AAA:1、AA+:2、AA:3、AA-:4
格付けが複数ある場合は高位のものを採用